

新春対談

歩みを進めてステキな米原市へ

米原創生を語る

牧島かれん政務官×平尾市長

昨年、合併10周年を迎えた米原市は、これからの未来を展望し、確かな歩みを進めていくための羅針盤として「まち・ひと・しごと米原創生総合戦略」を策定しました。市の将来像を描いた「米原創生」をテーマに、牧島かれん内閣府大臣政務官と語り合いました。



牧島かれん

神奈川県横須賀市出身。父の影響を受け、大学3年生のときに政治学の勉強を始め、ジョージワシントン大学大学院で修士号を取得。帰国後、国際基督教大学大学院で博士号を取得。桐蔭横浜大学などで教鞭をとる傍ら、情報番組のパーソナリティも務め、平成24年の衆議院議員総選挙で当選。自由民主党所属の衆議院議員として活躍。

平成27年10月、内閣府大臣政務官に就任後、地方創生の課題、地方行革等を担当。

平尾 あけましておめでとうございます。昨年、米原市は合併10周年を迎えました。また、これからの10年先、20年先を展望し、今日は牧島政務官と、地方創生の課題や米原市の未来について語りたいと思います。よろしくお願ひします。

牧島 米原市民のみなさん、あけましておめでとうございます。私の地元は神奈川県の西側で、小田原や箱根があります。米原と小田原は、東海道新幹線のご縁でもつながっていると思います。今日はよろしくお願ひします。

平尾 牧島政務官は、米原市にどんなイメージをお持ちですか。

牧島 「琵琶湖に面している」というイメージがあります。また「岐阜羽鳥と米原の間で新幹線のスピードが落ちる」という話を聞いていますので、雪も多く降るのかなと思います。

米原は、重要な交通網の結節点として注目されていますし、策定いただいた「まち・ひと・しごと米原創生総合戦略」についても、これから大きな期待をしています。

平尾 ありがとうございます。「交通網」と「地方創生」は切り離せない関係にあります。地方創生の中で交通網をどう生かせばよいかご指導

いただけますでしょうか。

牧島 やはり、米原駅から降りる人が増えると良いと思います。私も「オリテ米原」のインターネットショッピングサイトを見ています。

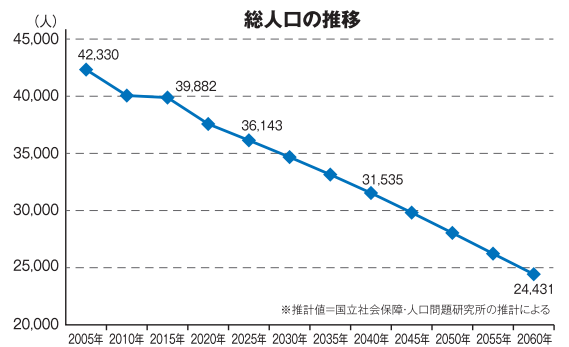
平尾 ありがとうございます。この「オリテ米原」は、行政ではなく市民や市内の工商业者など民間の方々が「米原を通過せずに、降りて」という願いを込めて名付けられ、今、大人気で、海外に向けても情報発信が始まりました。民間の若い人たちがアイデアを出しながら米原の特産品をPRすることで、米原に関心を持つ人を増やし、米原で降りてもらおうと頑張っています。

牧島 私も実際に米原へ降りてみたいと思いますが、まずはインターネットなどを通じて、米原に触れることもできるかなと思います。

米原市の地方版総合戦略の策定

平尾 今、経験したことのない超高齢化社会や少子化、人口減少により、地域に元気がなくなっています。この危機的な状況であるからこそ、どんな未来を描くのか考える時期が来ていると思います。昨年、米原市も人口減少に立ち向

米原市の人口予想



かう総合戦略を打ち出しました。

米原市の人口は、10年前は4万2千人でしたが現在は4万人を割り込んでいます。このまま何もしないと急激な人口減少が想定されています。

私は、国と連携しながら、なんとかこの問題に立ち向かっていきたいと思っています。

また、国からは財政的な支援だけでなく、今年度から「シティマネージャー」という「人財」を米原市に派遣いただきました。総合戦略を作る際シティマネージャーには、民間のネットワークを活用して大きな力となっていたいただき、本当に感謝しています。

牧島 市長がたくさんの市民のアイデアや意見を聴きながら総合戦略を作られたのは、まさに地方創生のあるべき姿だと思います。若者や女性、またよそ者だからこそ視点も含めて、市の本来あるべき姿や未来像が総合戦略の中で描かれていると思います。

米原駅東口周辺まちづくり構想

平尾 総合戦略の中で特に大きなポイントとしてあげた「米原駅」。新幹線も停車するこの駅は、米原市最大の社会資本です。米原市は自然に恵まれた環境と同時に交通利便性を持つているんです。新幹線を使えば、名古屋には26分、京都には20分で行けます。今年5月中旬には、北陸新幹線の敦賀以西のルートが決まりそうだと聞いています。また、平成39年開業予定のリニア中央新幹線によって、名古屋と東京(品川)間が40分で結ばれます。

私は都市間との時間距離が短くなると、米原市の優位性、特に米原駅の活用の仕方が大きく変わるだろうと思っています。米原駅を社会資本としてもっと機能發揮したいと地方創生で提唱しています。このことをアピールしたことで、昨

年10月以降、米原駅周辺の都市開発や、さまざまな経済活動について提案がありました。年末には、世界的に有名な建築家である隈研吾さんから、米原駅東口周辺に歴史文化を背景にした新しい街並みの整備を提案いただき、プロジェクトをスタートしました。

新しい時代の流れに乗って、米原市の地方創生は、他とは違う「米原創生」を進めていきたいと思っています。

牧島 交通の要衝である駅前、これから大きな事業が展開されることで、まちができていって、人が集って、新しい仕事もできてくる。まさに「まち・ひと・しごと」の創生を作り上げることができると思っています。



出典：米原駅東口周辺まちづくりプロジェクト
隈研吾建築都市設計事務所/NCA研究所株式会社

「女性・若者」「人づくり」で
まちに活力を

平尾 米原市を「滋賀県一子育てしやすいまち」、「女性や若者が活躍できるまち」にしようと取組を進めています。父親も育児に関わり、子育ては夫婦や社会で支えるという文化を、日本にも根付かせていくことが少子化問題の解決策だと思います。

米原市役所では、昨年から育児休業の取得対象の男性職員に、私からメッセージを送っています。「夫婦で子育てをすることが、公の立場でも人間的にも成長する貴重な機会だから、ぜひ育児休業をとってください」と。

牧島 そうですか。イクメンになりたくても、上司になかなか言い出せない人が多い中で、市長から「どうぞ」と言ってくくださるのは励みになりますね。

平尾 市役所こそ率先して日本の少子化問題を変えていく意識や姿勢をとるべきではないかと私は思っています。また、育児を母親だけでなく、社会みんなで分担する仕組みを作っていく上で、ワークライフバランスも大変大事だと思っています。

ます。

最近、米原に来られた若いお母さんから「米原に住むようになって、今まで必要だと思っていたものが、実はそれほど必要ではなかったことに気がついた」というお話を聞きました。「荷物をたくさん抱えて歩いていたら、1つ置いて身軽になった方が、歩くことが楽しくて、よく周りが見えてきた」と。

牧島 たくさんの荷物を抱えなくても、人と人とのつながりの中で、誰かが声をかけてくれたり、手を差し伸べてくれたりして、お母さんにとって、安心感があるのでしょうかね。

平尾 米原では地方創生の取組として、企業との連携をすでに始めました。NTTドコモと、スポーツクラブを全国で展開するルネサンスがICTを活用して、米原市の子どもの健康を増進させるプログラムを作るものです。今は、雑巾をしぼったことがない子どももいます。ボールが飛んで来ても止められないなど、外で遊ぶことが少なくなってきたことが原因で、身体機能が低下してしまっています。この取組では、ビッグデータを使いながら、子どもの発育や健康増進を進めていきたいと思っています。

牧島 すごく興味深い取組ですね。ご指摘のように、手足や身長が伸びた日本人になっているんだと思います。ジャンプしても膝で着地してしまったり50メートルが真っ直ぐに走れないというお子さんがいます。子どもの身体機能の改善には、正確な情報収集と分析が必要ですし、その先どうアクションを起こすか専門家の指摘も大事だと思います。

また、ビッグデータを活用することは、地方創生において私たちの考え方にも合っています。

私は「地域経済分析システム RE_SAS」というサイトを、ぜひ市民のみなさんにも知っていただきたいと思います。RE_SASは、データで米原市のことも全国のことも知ることが出来ます。市民のみなさんがビッグデータを使いながら、市長に提案をしていくような時代になつてきたと思っています。

平尾 そうですね。インターネットなどのICT環境が、随分変化していますし、非常に身近になっていますので新しい変化を作れるのではないのでしょうか。



民藝創生プロジェクト

平尾 米原市では「水源の里まえばら民藝創生みらいづくり隊員」を募集しています。若手のモノづくり職人を、都市部から誘致して、こだわりの豊かな創造力で伝統の素材や技術、文化を暮らしの中に生かす新しい「民藝」を米原から作ってもらうプロジェクトです。

甲津原の麻でできた織物をはじめ、市内には多くの地場産業があります。多和田の「近江真綿」は江戸時代から続いていますし、「上丹生の木彫り」は現代風にアレンジした表札がオリテ米原でも人気があります。

牧島 実物を初めて見ました！素敵ですね！

平尾 今は、手作りの温もりが評価を受ける時代です。生活文化や地域の素材にこだわった「民藝」を今一度創生することで、米原市の文化を作るとともに、新しい暮らしを提案していけるような若者文化を米原市に集めたいと思います。

若者が新しい価値観で地方の文化をつくり、地方から世界に売り出すような流れを作っていきたいなと思います。

牧島 「地域おこし協力隊」の枠組

みの中で、それぞれの地域が持つ特徴を次の時代にどう広報活動していくか国と連携をとっていただき、素晴らしい取組だと思っています。私も、ものづくり国家日本として、次の世代に向けて若手職人や手に職をもつ人を応援していきたいと思っています。ドイツの「マイスター制度」のように、社会的に職人を認めるといふ、従来日本にもあった暮らしをもう一度取り戻したいと思っています。

平尾 確かに、良いものは100年も200年も使われますよね。

牧島 そうなんですよね。

平尾 手放したくない、いつまでも使いたいものは、みんなが欲しいがると思います。マイスターや職人に対する憧れを、若い人が持っているのも聞きます。そんな若者を育てたり、若者が望むライフスタイルを地方に定着させていきたいなと思います。



市民が誇れる米原市へ

平尾 社会が大きく転換し始めた今、多様な生き方が認められるようになりまし。今まで光を当てられていなかったものに対して、この地方創生の中で、しっかりと光を当てていきたいと思っています。

牧島 米原は宝物に満ち溢れた場所です。将来、駅前が新しくできあがっていく中で、東海道新幹線だけでなくリニアとの関係性もあり、京都や名古屋にも近く、また、北陸ともつながるたくさんの可能性が開けているなと思っています。これは、広域的な観光にもつながると思いますので、観光客のみなさんに民藝に触れていただいたり、米原市民のみなさんとの交流も観光の一つとして位置付けてほしいと思います。

平尾 ありがとうございます。大変温かく、力強いエールをいただきました。市民のみなさんが「米原はいいところ暮らしやすいよ」と誇れることが、地方創生を大きく飛躍させる前提になるのだと思います。今年を「米原市の地方創生元年」と位置づけながら、新しい米原市の未来をぜひ創っていききたいです。

牧島 私も将来「米原でオリテ、自

分で米原を堪能できればいいな」と思っています。また、それぞれの地域の良さを、私たちは地方創生として今年も応援していきます。本年が米原のみなさんにとって良い年になることをお祈りしています。ありがとうございます。

平尾 本日は、ありがとうございます。

対談の様子は、
1月4日(月)～7日(木)に
伊吹山テレビで放送します。
ぜひご覧ください！

